



# 6月 えんだより



ともしび保育園 6月1日発行



## その固定概念、捨てませんか？



すでに夏のような日差しの日もありますが、過ごしやすい日が続いており、園庭のプランターの夏野菜もぐんぐんと生長しており、子どもたちと毎日観察を楽しんでいます。

今年度は幼児リーダー兼クラス担任として日々過ごしているのですが、先日とても考えさせられた子どもとの出来事がありました。

散歩先で、私と二人の子どもと鬼ごっこ(のような遊び)をしている時のことです。一人は鬼になって走り回って私にタッチをしてきました。私は鬼になり、もう一人の方へ、と思ったその時、「タッチしてよ」とその子は目の前で言うのです。「鬼ごっこだし逃げてもらいたいなあ」という思いから「タッチするから逃げて」と声をかけました。しかしその場から全く動きません。「タッチするから逃げて」「……」。「(あ、鬼になりたいから逃げないのね)よし、分かった!」とタッチをすると、その子はすごい速さで走り始め、遊びが再開しました。鬼になれたことが嬉しかったらしく、なかなかタッチをしないで追いかける役をしばらく楽しんでいました。

「ああ固定概念にとらわれていたな」と振り返って感じました。自分自身遊びの面でも、生活の面でも割と柔軟に考えていける方だと思っていましたが、ふとした時に「今までそうだから」とか「これはこうだから」という考えが出てしまうのでしょうか。自分でも残念でした。しかし、この日以降、その瞬間の子どもの言葉の意味や、表情に隠されているもの、子どもが本当に訴えていることはなんだろうか、と今までも意識していたことをより強く意識するようになりました。

保育園は子どもが学んで育っていく場所です。そこに我々保育者が、子どもの学びをより深めていけるよう関わっていきます。しかし、今回は私自身が子どもから学ばせてもらいました。考える機会をもたせてくれてありがとう、という気持ちです。

こちらが一方的に、というのではなく、お互いに学び合い、成長していく。きっと今までも保育園はそういう場所であったと思うのですが、これからは強く意識をして過ごしていきたいと思っています。

